

三校合同課題研究発表会 開催

◇期 日 2020年12月20日(日)

◇場 所 富山国際会議場

◇参加者 富山・高岡・富山中部高校探究科学科1・2年生、各校教職員、課題研究指導関係者

12月20日に富山国際会議場で令和2年度三校合同課題研究発表会が行われ、県内三校の探究科学科2学年生徒約240人がポスターセッション形式で課題研究の成果を発表しました。今年度の発表会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時間短縮や三校以外の高校生や保護者などに来場を自粛してもらうなど、例年どおりではない部分もありましたが、無事開催できました。

開会式後の全体会では、ホスト校である富山中部高校の探究系の進行で、三校から1班ずつの代表発表が行われました。高岡高校の代表は「ジエンガ必勝法」と題して、「ジエンガ」というゲームを物理学から分析し、計算とオリジナルソフトによって必勝策の研究発表を行いました。富山高校の英語班は、「Are women in the present-day fairy tales becoming stronger?」のテーマで、ディズニープリンセスの変遷と女性像について、演技を交えて研究成果を発表しました。富山中部高校の化学班は、「卵殻膜による重金属イオンの吸着」のテーマで、明確になっていない卵殻膜による吸着のメカニズムについて、条件に注意しながら行った実験データを元にした考察を発表しました。いずれも様々な観点から考察された説得力のある研究発表でした。また活発な質疑応答もありました。



ポスターセッションでは、30分のコアタイムでA・B2つのグループが交代で発表を行い、それぞれの課題研究を工夫して伝えました。多くの生徒がポスターセッション開始前の閲覧時間からポスター会場を回っていました。初めてこの発表会に参加する1年生からは、「文系だから来年度の活動に備え国語の発表を聴きにいきいたい」「探究活動で触れた実験を深掘りした発表だから関心がある」「要旨集に掲載されている研究内容にひかれた」といった声が聞かれました。2年生も、自分たちの発表の合間に他校の発表をできるだけ多く聴こうと足を運んでいました。実際他校の発表を見ると、自分たちの間では話題に上がらなかった多岐にわたった調査をしたり、グラフ・表に示されたデータで根拠つけて独自の考察を行ったりと、大変関心のもてる内容ばかりでした。本校では開設されていない情報や家庭科の研究を行っている班もあり見応えがありました。理系の研究では独自に製作した動画や装置を用い、聴き手を魅了していました。



発表者は、いかに聴き手にわかりやすく、飽きさせない発表をするかを考えて、内容だけでなく声量やポスターのポイントを意識して、1回あたり約10分の発表を行いました。質疑応答では想定していたよりも多くの質問があり、発表者は1つ1つに丁寧に回答していました。生徒からの質問はもちろん、大学の教授や他校の先生方からは、「この箇所について他の根拠はあるのか」といった厳しい指摘がある一方、時には「この着眼点・説明が素晴らしい」とお褒めの言葉を受け取った班もみられました。



閉会式の各校代表生徒による感想では、自らの研究発表を反省、1年生にむけての期待、今後の研究の展望についてなど、様々な内容が上がっていました。最後に富山大学の唐原一郎教授と徳嶋 曜教授から講評をいただきました。来年度課題研究を始める1年生にとっても示唆に富んだ講評でした。



2年生にとっては、コロナ禍により例年以上に短い期間で研究をまとめあげ、立派な会場で成果を発表できたことに充実感を覚えた一日でした。自分たちだけでは発見できなかった内容や視野を多く取り入れることができたと思います。また他校の生徒との様々な交流を通して、刺激を受けることができました。今回の発表会を受けて、1年生が来年度の探究活動への見通しを持てること、また本校2年生も来年1月に行われる「発展探究」課題研究発表会にむけて研究をさらに進めることを期待します。